

- アウディジャパン、「Q5 40 TDIクワトロ」等計6車種について、電気装置（データバスダイアグノシスインターフェース）に不具合があるとしてリコール
2017年8月3日～2022年3月4日に輸入した1万0869台
リヤシートの下に取り付けられているデータバスダイアグノシスインターフェースにおいて、リヤシートにこぼした液体の水分や、車体底部のシーリングが不十分なため、大雨時や深い水たまりを走行した際に侵入した水分により、データバスダイアグノシスインターフェース内で短絡が発生することがある。そのため、警告灯が点灯するとともに、エンジンが出力を抑える緊急走行モードに入ったり、パワーステアリングのアシスト力が減少したりする恐れがある。
- 三菱自動車、「デリカD:5」について、意図せずスライドドアが開閉するおそれがあるとしてリコール
2015年12月1日～2020年3月27日に生産した6万3123台
電動スライドドアの車外側開閉スイッチに製造不良があることが判明。ゴムキャップに亀裂が入っているものがあり、亀裂部からスイッチ内部に侵入した水分により通電することがある。そのため、停車時や極低速走行時等の特定条件下で、意図せずスライドドアが開閉する恐れがある。
- 三菱自動車、「デリカD:5」「エクリプスクロス」のエンジンコントロールユニット（ECU）に不具合があるとしてリコール
2019年2月8日～2020年11月20日に生産した3万0137台
ECUの制御プログラムが不適切なため、EGR（排気ガス再循環装置）経路内にデポジットが多く堆積することがある。そのため、堆積したデポジットにより、EGR経路内の排気ガスの流量が低下し、エンジン警告灯が点灯してアイドルストップ機能が停止する恐れがある。または、堆積し硬化したデポジットが剥がれ落ち、吸気バルブに噛み込むことにより、エンストし再始動できなくなる恐れがある。
- スズキ、「ワゴンR」についてサイドエアバッグ展開時にドアが開くおそれがあるとしてリコール
2017年1月27日～2022年3月10日に生産した2万1630台
前席ドアのドアラッチとストライカの設定が不適切なため、側面衝突時にサイドエアバッグが展開するとドアラッチが変形するものがあり、最悪の場合、ドアラッチとストライカの噛合いが解除され、前席ドアが開く恐れがある。
- スバル、「レヴォーグ」「フォレスター」「レガシィ」について、EGR圧力センサに不具合があるとしてリコール
2020年10月21日～2022年4月6日に生産した5万2838台
排気ガス再循環装置（EGR）に搭載したEGR圧力センサにて、排気ガスに対する耐力が不足していたため、排気ガスによる腐食からセンサ出力異常を起こし、警告灯点灯、加速不良に至ることがあり、最悪の場合、エンジンが始動できない恐れがある。
- いすゞ自動車、「ギガ」のリレーに不具合があり、エンストしてしまうおそれがあるとしてリコール
2015年10月5日～2022年1月13日に生産した7万2617台
キーONリレーおよびECMリレーの耐久性が不十分なため、リレー内部の樹脂製ボビンが熱により収縮し、コイルとの間に隙間が生じるものがある。そのため、そのままの状態で使用を続けると、走行時の振動等によりコイル線が断線し、エンジンストールに至る恐れがある。